

# 令和7年度 岩手県立美術館協議会

日 時：令和7年9月11日（木）

10:30～12:00

場 所： 岩手県立美術館 会議室

一 次 第 一

1 開 会

2 館長挨拶

3 議 事

(1) 説明事項

ア 岩手県立美術館の概要について【資料1】

イ 令和6年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況について【資料2】

ウ 観覧者数の推移について【資料3】

エ 令和7年度事業実施状況について【資料4】

オ 美術品収集について【資料5】

(2) その他

4 閉 会

## 令和7年度岩手県立美術館協議会出席者名簿

令和7年9月11日(木)開催

【委員】(五十音順)

氏名	役職名等	出欠状況
合川常美	盛岡ターミナルビル株式会社ホテルメトロポリタン盛岡マーケティング部セールスグループマネージャー	欠席
伊藤真紀子	花巻市教育委員会教育部文化財課課長補佐	出席
大衡彩織	一関市博物館副館長兼学芸係長	欠席
小野寺真貴子	株式会社川徳 執行役員	欠席
梶田佐知子	特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会事務局長	出席
加村なつえ	岩手芸術祭美術展現代美術部門理事、岩手デザイナー協会会員	出席
菊池勝彦	岩手県立南昌みらい高等学校校長	出席
熊谷治久	盛岡市立下橋中学校校長	出席
齊藤桃子	石神の丘美術館主任学芸員	出席
田中麻里	岩手県立美術館友の会運営委員	出席
三上瑞穂	盛岡市立太田小学校校長	出席
八重樫慎之介	株式会社岩手日報社編集局文化部次長	出席
柳田陽一	県立学校教諭	出席
山内圭介	(公社)日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会長	出席
山口真樹	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	出席

(出席12名、欠席3名)

生涯学習文化財課 出席者

氏名	職名	備考
藤井茂樹	総括課長	
小野寺英徳	主査	
小野寺大地	主事	

文化振興事業団 出席者

氏名	職名	備考
佐々木真一	事務局長兼業務支援室長	
村上絵美	業務支援室総務課 主査	

岩手県立美術館 出席者

氏名	職名	備考
長内努	館長	
多賀聰	副館長	
千田貴浩	総務課長	
吉田尊子	学芸普及課長	
加藤俊明	上席専門学芸員	
住吉オリエ	主任専門学芸調査員	
千葉達也	総務課主任主査	
杉田友視	総務課主査	

## 岩手県立美術館の概要

令和 7 年 4 月 1 日現在

項目	内 容	
施設・開館の概要	<p>・開館(H13年10月6日) 【2001年】</p> <p>・敷地面積 21,157.35 m<sup>2</sup>(盛岡中央公園内)</p> <p>・建築面積 10,061.66 m<sup>2</sup></p> <p>・延床面積 13,000.00 m<sup>2</sup></p> <p>・展示室面積 3,187.00 m<sup>2</sup> (企画展示室 1,223 m<sup>2</sup>、常設展示室 1,964 m<sup>2</sup>)、ホール 187 m<sup>2</sup>、アートスペース 79 m<sup>2</sup></p>	<p>・建築構造 鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造 地上 2 階建</p> <p>・総工費 約 9,043 百万円 (建築 6,247 百万円) (電気 988 百万円) (機械 1,808 百万円)</p>
基本理念	<p>岩手県における 21 世紀の芸術文化の拠点施設として (開館時の目標)、「①収集・保存・展示の基本的機能が充実した美術館」「②美術文化創造の核となる美術館」「③地域性と国際性を併せ持つ美術館」を目指す。</p>	
事業概要	<p>1 美術品等の収集・保管、常設展示 岩手県出身及びゆかりの作家の作品を中心に近・現代の優れた作品を収集・保管し、公開する。</p> <p>2 企画展示 幅広い視野のもとに、地域や時代にとらわれない、国内外の様々なテーマによる企画展を開催する。</p> <p>3 教育普及 美術と県民との多様な結びつきを可能とするため、各種の教育普及事業を行う。また、美術館情報システムによる美術情報の発信に努める。</p> <p>4 調査研究 美術館活動の充実を図るために、郷土の美術や国内外の美術に関する調査研究に取り組む。</p>	
館の特徴	<p>1 施設・設備 景観と調和した建物 トップライト構造のグランドギャラリー 環境への配慮(ガスボイラー、太陽光発電等)</p> <p>2 コレクション 日本近代美術を辿る上で欠くことのできない存在である萬鐵五郎、松本竣介、舟越保武の 3 人を中心に、岩手県出身又はゆかりの作家の優れた作品を収集 (関連資料を含めて約 5,300 点)</p>	
運営体制	<p>1 業務委託 ①教育(学芸)業務については、県が公益財団法人岩手県文化振興事業団 (以下「事業団」と標記。) に委託 ②施設管理等業務については、県が事業団を指定管理者に指定のうえ委託(R5~R9 年度: 現在 6 期目) なお、警備、受付、看視、清掃等の業務については、事業団から民間事業者に再委託</p> <p>2 職員体制 館長(常勤) 副館長/派遣(1) <u>総務課</u>(7)・総務課長/法人(1)、主任主査/法人(1)、主査/法人(1)、会計年度雇用職員(4) <u>学芸普及課</u>(12)・学芸普及課長/派遣(1) [学芸担当⑥]・上席学芸専門員/派遣(3)、主任専門学芸員/派遣(1)、学芸員/派遣(1)、会計年度雇用職員(1) [普及担当⑤]・主任専門学芸調査員/派遣(1)、専門学芸調査員/派遣(1)、学芸調査員/派遣(2)、 会計年度雇用職員(1)</p> <p>3 岩手県立美術館協議会 (美術館条例第 10 条に規定) 委員定数 15 名 (学校教育関係 3、社会教育関係 2、学識経験者 9、公募 1) 年 1 回開催</p>	

事 業 名	事 業 内 容
収集・保存活動	<p>1 本県出身及び本県ゆかりの作家を中心とした、近・現代の優れた美術品の収集を行うとともに、関連資料の収集に努める。</p> <p>2 収集にあたっては、綿密な調査研究に基づき、長期的な収集計画を立て、系統性のあるコレクションとなるよう収集を進める。</p> <p>3 美術品等の収集は、購入、寄贈及び寄託とし、学識経験者による美術品収集評価委員会に諮って行う。</p> <p>4 収集した美術品等は、良好な環境の中で安全に保存するとともに、適切な分類方法により整理・分類を行い、必要に応じて修復等を施す。</p>
展示活動	<p>1 館所蔵の美術品等を常設展示室において紹介する。</p> <p>2 収集の柱である萬鐵五郎、松本竣介、舟越保武の3人の作家については、「萬鐵五郎展示室」「松本竣介・舟越保武展示室」において重点的に展示を行う。</p> <p>3 水彩、水墨等の劣化、褪色しやすい紙作品の保存に配慮するとともに、より多くの美術品を県民に公開するため、年4回程度（紙作品においては8回程度）の定期的な展示替えを行う。</p>
	<p>国内外の様々なテーマによる企画展を開催し、県民に優れた美術鑑賞の機会を提供する。</p> <p>【年間構成の考え方】</p> <p>1 欧米の近・現代美術に関する企画展（年間1~2本程度）</p> <p>2 日本の近・現代美術に関する企画展（年間1~2本程度）</p> <p>3 工芸、写真、デザイン、メディアアートなど国内外の多様な美術を紹介する企画展（年間1本程度）</p> <p>4 県ゆかりの作家及び関連する作家の企画展（年間1本程度）</p>
調査研究活動	<p>1 本県の美術をはじめとして国内外の美術に関する調査研究を行い、その成果を美術品の収集や企画展等に反映させる。</p> <p>2 美術館教育や美術品の保存技術等、美術館固有のテーマについての調査研究にも取り組む。</p>
教育普及活動	<p>1 学芸員による作品解説会や研究者等を招いた各種の美術館講座、美術の専門家と一般の参加者とが創作体験を共有するワークショップ、コンサートなど、県民に多様な美術学習、美術体験の場を提供する。</p> <p>2 ライブライバーにおける図書閲覧、デジタルビジョン・レファレンスにおける映像番組の視聴や高精密画面での所蔵作品の検索等、国内外の様々な美術情報の提供に努める。</p> <p>3 インターネットのホームページを通じて、美術館の情報を国内外に積極的に発信する。</p> <p>4 学校との連携について、一層の推進を図る。</p>

## 令和6年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況

【令和6年度美術館協議会(令和6年9月3日開催)】

### 1 説明事項「岩手県立美術館の概要」について

主な意見要望等	対応状況
<p>地方では、作品に触れる機会が少ないと感じる。</p> <p>中央だと、美術館、博物館の敷居が高くななく、子供たちが自転車で行くとか、夏休みにサンダル履きで行くような場所の一つである。</p> <p>県立美術館は入口に「公園の利用者はトイレを使わないでください」の貼り紙が貼ってあるとか、閉ざされた館であると感じている。</p> <p>作品は教科書に載るようなものを参考にして選んでいただきたいと思う。教科書に載るような作品があり、子供たちの目に触れるような美術館であれば良いと感じる。</p>	

### 2 説明事項「令和6年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① 対面での出前授業は比較的申し込みは少なく、ICTの授業の申し出は多いのが今の状況のことであるが、ICTはどういったことを目標としているのか。</p> <p>また、対面でなくICTに人気があるのはどうしてだと思うか。</p>	<p>(前回回答)</p> <p>ICTの出前授業はTEAMS、もしくはZOOMで学校と美術館をつなぎ、教育普及の職員が講師を務めて、小学校、中学校で多くの学校が使用している学習支援アプリを使って、美術館所蔵作品を画像データで鑑賞する活動である。</p> <p>現在、小学校でも中学校でもICTは積極的に使う動きがあり、この機会にぜひ新たにやってみようという学校が多い印象である。</p> <p>これまでの出前授業は、「作品を紙に印刷し写真にして持参し授業する」内容であり、県内6つの地区に分けし対応していたが、6つの地区を一回りするのに6年かかるため、小学校の時に経験できない子供たちもいた。</p> <p>現在、学校にGIGAの関係で端末が出回り、それぞれの教室で授業できるように組んでいる。直接出張しなくてよく、日程調整だけで、数多く対応できる。</p>

	<p>当初、学校の会議等を通じて希望を募った際にはあまり希望がなかったが、改めて普及部門から具体的なものを示したら結構手が挙がった。</p> <p>令和5年度は盛岡近辺の学校に御協力いただき、実際の授業で実験という形で行い、今年度は実際に8月上旬から実施し計16校が取り組んだ。</p>
<p>② フェイスブックとXをフォローしているが、「いいね」が凄く少ないし、フォロワーともに少ないと思う。</p> <p>ガレリーナがインスタグラムですごく情報発信していて、その仕組みが気になっている。</p>	<p>(前回回答)</p> <p>フェイスブックもXも同じように同じ原稿で投稿しているが、現在は、フェイスブック利用者が少なくなっていると感じている。</p> <p>美術館ではインスタグラムのアカウントはないが、ガレリーナはショップとしてグッズやイベント等の発信をしている。</p> <p>今後、どのような媒体が効果的であるかを検討して、今後の展開を考えていきたい。</p>
<p>③ サンリオ展はとてもよかったです、それに合った食事というのもすごく楽しみだった。</p> <p>美術館での食事は、一つの楽しみだったので、これからどういう方向でレストランがいくのかというのを教えていただきたい。</p>	<p>(前回回答)</p> <p>レストランについては利用者から多くの声を頂いており、長らくお待たせして申し訳なく思う。</p> <p>現在、県教委では、レストランの再開に向け事業者の意向調査（サウンディング調査）を開催することで、ホームページで周知している。</p> <p>出店意向や希望事業者を集め、どういった事業形態であれば事業が可能か伺い、レストランの活用について、検討を進める予定としている。</p> <p>基本的に飲食の提供の形での営業を考えているが、事業者の意向なども踏まえ検討していきたい。</p> <p>(追加回答)</p> <p>レストランの営業再開については、美術館利用者から多くの声を頂いている。</p> <p>県教育委員会では、レストランの再開に向けて、昨年度以降、事業者の意向調査（サウンディング型市場調査）を実施するとともに、レストラン等の営業を検討している事業者を対象とした現地説明会を複数回行っているところである。</p> <p>現在、カフェ形式での営業の可能性を含め、幅広に検討しているところであり、出来る限り早期に再開できるよう、引き続き、取り組んでいく。</p>

<p>④ 以前中止になった、ムーミン展の開催を要望をしたい。</p> <p>サンリオ展は2回来たが、週末は駐車場が入れないくらい賑わっている。</p> <p>博物館のポケモン展も、年間の入場者分を稼いだのではないかというようなすごいことだったが、時々に合わせたもの企画は楽しく、良かったと思う。</p>	<p>(前回回答)</p> <p>ムーミン展は、アンケートに必ずと言ってよいほど要望に上がっているコンテンツである。以前に中止となったムーミン展そのものは難しいが、今後同様の企画の情報は収集しており、開催できるように努めているところである。</p> <p>サンリオ展はポケモン展同様に多くの方に観覧いただいているが、お客様の反応を見ると、夏休み期間に開催できたことは良かったと思っている。</p> <p>展覧会は皆さんに喜んでもらうだけではなく、収支も関わってくる。年に1本はこうした大型の展覧会により、皆様に関心を持って来館いただきつつ、美術館の運営に資するような方向で、企画展、コレクション展の計画を進めてまいりたい。</p>
<p>⑤ 美術館友の会では、作家さんを呼び、レストランを借りて会員の方と紅葉を楽しむ、という企画を過去にやっていたが、閉店によりイベントができなくなっている。</p> <p>会員からの要望もあり、再開に向けてよろしくお願いしたい。</p>	

### 3 説明事項「令和6年度事業実施状況」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① 大宮政郎、杉本みゆき、菅木志雄、百瀬寿など、今現役で活躍されている方を特集する、コレクション展だけれども、コレクション展を超えて企画展ではないというような感じの展示は面白く思って見ている。</p> <p>岩手の美術にとっても現役の作家を取り上げることは大切だと思うし、冊子とか本の形で残したり、作家が来てトークやイベントだったり、あるいはアブリーレでもインタビューで特集されていると思うので、こうした形で蓄積していくということが、今後のために良いことと感じる。</p> <p>サンリオ展を見終わって、展示室からだと、右側はキャラクターの写真パネルがある。左側にはグッズコーナーがある。グッズコーナーを出ると出口の方に行ってしまい、コレクション展までは思い至らない方もいるのではないかと思う。</p> <p>せっかく、たくさんの人が来た際、何とかコレクション展にも誘導し両方を楽しんでもらったらしいのではないかと思う。</p> <p>サンリオのカワイイと、百瀬さんのキラキラはつながる部分もあるかと思ったので、コレクション展だけれども、ライブ感があるというか、今の作家の活動も見られるよというのも面白いと思う。</p>	<p>(前回回答)</p> <p>お話をとおり、最近は現役の作家さんをフィーチャーしての特集を組むことが多くなってきた。予算的には大変厳しく、実は手弁当でやるとか、そういったところはある。また企画展示室は大きすぎて、企画展示室を埋めるだけの岩手の作家さんの企画展というのは計画、組み立てが難しい。</p> <p>そうならば、コレクション展の方で、当館のコレクションにプラスアルファした形の本当にミニ企画といった感じになるが、そういった形で取り上げて、フィーチャーしていくということは今できることかなというふうに考えていて、そういった取組が今ちょっとずつ積み重なっているところである。</p> <p>御指摘にあったとおり、これを記録に残すということが色々な事情によりできずにいることが私たちも残念に思うところはあるが、アブリーレで作家インタビューとして取り上げるなど、公式な媒体に掲載し、様々な方に御覧いただいている。</p> <p>確かに、私たちの方で強く引っ張って行くというような泥臭いところはないかもしないが、貪欲に努力をしていったらいいのかなというの、御意見をいただいていて感じたところである。</p>
<p>② 企画展の観覧者でコレクション展を御覧になる方はどの程度か。</p> <p>企画展は見たが、コレクション展はなかなか足が向かないという人が多い傾向にあるのではないかと思ってお尋ねしたが、企画展、事業概要のところを見ると、幅広い視野のもとに、地域や時代にとらわれない、国内外の様々なテーマによる企画展を開催するということで、何でもできるような内容になっている。</p> <p>先程、大型展を開催し集客をしなければというような話があったが、美術館においてそれは酷だというのもわかる。</p>	<p>(前回回答)</p> <p>企画展とコレクション展の関連は、すごく意識をしているところで、川端龍子のときは中尊寺、平泉などとの関連もあった。</p> <p>堀内誠一の展覧会のときは、堀内さんは松本峻介に憧れたということもありまして、企画展示室に峻介の作品も展示しましたし、同じく2階のコレクション展におきましても堀内さんが憧れた画家、あるいは関係のあった画家、同時代に活躍した画家というような作品をピックアップしたようなところもある。</p> <p>どこまでPRができるかというと難しいところはある。例えばジブリ見に行ったよというのが、県</p>

例えば、サンリオやジブリなど、「楽しかった。さあ、帰ろう」では、せっかく美術館に来た効果があまり發揮できなくもったいないなと思う。

前からコレクション展が学芸員の方たちの非常に個性的な力の入った展示だと、この場でも申し上げてきましたが、企画展とコレクション展ができるだけリンクさせるようなことを考えていただけだとありがたい。

例えば、川端龍子と岩手の関わりというのばかり強調されていたように拝見した。全ての展覧会がそのようにいくとは限らないと思うが、少しでも何か関係のあることをして、種を撒くとそれにつられて人がやってきて芽を出して花を咲かせるということもあるのではないか。

大型展覧会で集客が非常に優秀な展覧会が多いだけにコレクション展のほうもぜひ足を向けてもらえるような、工夫していただければと思う。

④ 企画展の観覧者数について、目標は設定されていると思うが、公表できるのであれば、情報を教えていただきたい。

また、SNSは今や必須になっていると思うが、フォロワー数の目標など、具体的な取り組みがあっても良いのかなと思う。

作家のSNSから、いま展示しているところに飛んでつながるようなこともあるので、SNSには是非に力を入れていただきたいということ、観覧者数については、もし、目標に追いついていなければ追加策の動きや、県や民間で応援して、美術館に足を運んでもらうような動きが取れればと思っている。

立美術館に行ったよとはならないとは思うが、あの場所に行ったということがどこかまた思い出してくれるような、あくまでも人気あるコンテンツというのはそのきっかけづくりというか、入り口であろうと思う。

我々は、いろいろな手段方法により情報提供を行い、コレクション、岩手の美術に触れ合うきっかけになるような、そういった工夫をしていきたいと思う。

(追加回答)

令和6年度企画展観覧者、約7万2千人のうち、  
でコレクション展も鑑賞された方は、約3万1千人  
であった。

年度によっても差異があるが、企画展観覧者のうち約半数の方がコレクション展も観覧されている傾向となっているが、サンリオ展、ジブリ展など一般向けの展覧会ほど常設展の観覧者の割合が下がる（約3割程度）傾向がみられる。。

(前回回答)

目標数の具体的な数値についてはご容赦いただきたいが、採算の命題もあり、企画展によって目標値も変わり、現在のサンリオ展はかなり高い目標となっている。

それぞれの企画展について、目標数は設定しており、進捗状況により予定通りでない企画展については、追加で宣伝しようとか、進行管理を行っている。

SNSは、CMに割ける予算が少ないため、今年度から力を入れているが、企画展によっては著作権の兼ね合いで、展示物の画像掲載ができないとかの縛りがある。

来館してもらうためには、どのような内容かわからないと、なかなか足を向けようとはならないので、そういうところを可能な限り、今後は発信していきたい。

#### 4 説明事項「美術品収集」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① 以前の協議会では、菅さんの作品が非常に注目的になったというところがあるかと思う。今は現代美術と言われていない作家でも、制作当初は今の菅さんと同じようなレベルであった作品がたくさんある。長い歴史がそれは証明して行くことになるかと思うが、では、誰の意見を聞くのかといったときに、もっとも尊重されなくてはいけないのが、岩手県立美術館の学芸の考え方だと思う。</p> <p>そういうことを判断できるという考え方の元に採用され、研鑽を積み、長い間お仕事をなさって、展覧会を企画したり、調査研究を行った方たちの考えに沿って、作品収集をしていくべきものなのではないかと思うので、収集計画がまだ固まっていないというところもあるのかと思うが、岩手県立美術館の学芸員の方たちの御意見を尊重して進めていただきたいと思う。</p>	<p>(前回回答)</p> <p>計画としては調査中のものもあり、資料にあるものが全てではない。</p> <p>菅木志雄さんの作品については、ここ2・3年いろいろ御意見を伺いながら進めてきたところなので、菅さんの作品を挙げている。御指摘にありましたとおり、現代美術の作家さんが中心とはなっているが、これ以外にも、去年開催しました展覧会「そのとき、岩手では」で出品された古い時代の作家作品の取得も考えている。</p>
<p>② 以前に収集については、学芸員の方々の意見を尊重したいとお話ししたことがあるが、この時期に、このような作品を取得してよいのかという反対意見も出たように思う。</p> <p>収集にあたっては、おおよそどの程度の予算を考えているかも判断のひとつになると思う。</p>	<p>(前回回答)</p> <p>収集する作品は、全部が買うものではなく、寄贈によるもあって、概ね5年間で5千万円くらいを目途にと考えて取得すると考えている。</p> <p>今後は、評価などについては美術品収集評価委員会で審査を受ける、という流れになる。</p>
<p>③ 名前の上がっている方たち、ぜひ収集すべきだと思う。</p> <p>菅さんは、あまりにも世界で活躍し過ぎたために、岩手県内の活動はほとんどない方なので、舟越桂さんとかと違って、県内にはほぼ知られていないというのがネックになっているのではないかと思うが、私は菅さんが一番ビッグネーム、世界的に活躍している方だと思っています。</p> <p>価格も高いと思うが、岩手ゆかりの作家、確実に今後の日本美術史の中で名前が残る人なので、積極的に1点とは言わず、10点でも20点でも買えるぐらい買ってほしいというのが私個人の希望である。</p>	

## 5 その他、意見要望等

主な意見要望等	対応状況
<p>① 青森県立美術館は観光系の部署が担当している、青森県内の色々美術館やアート施設に観光誘致も視野に入れた良い活動をしていると思う。</p> <p>岩手県立美術館の強み、魅力は、教育委員会所管であり、教育連携が強くそれが武器だと思う。</p> <p>その武器を最大限に生かして、若い人たちにどんどん美術館を好きになってもらうような、取り組みをしていってほしいし、岩手県、盛岡市、観光の方も盛り上がっているので、この作品を見たいから、岩手に行こうと思っていただけるような、そのためには菅さんの作品が必要ではないか、もっとも菅さん作品が充実しているのは岩手県立美術館をおいて他にはないと強くアピールしていってもらいたいと思う。</p>	<p>(前回回答)</p> <p>青森県が5館連携で取り組みをしているのは伺っている。美術館として、博物館連携だけではなく、連携所管しているのは教育委員会ではあるが、教育普及に力を入れているところもある。</p> <p>石神の丘美術館など、様々な美術館との取り組みをこれから考えていきたいと考えているので、今後とも様々な御意見をいただきたい。</p>
<p>② 岩手は人口流失がとても激しくて、若い人に魅力のある街づくりは大切だと思う。観光もそうだが、街づくりも含めた美術館の在り方というのも考えていただければと思う。</p> <p>若い世代の憧れをもって岩手に残れるような街づくりを美術館を中心になってやっていければなと思うので、よろしくお願いしたい。</p>	
<p>③ 花巻市博物館のジブリ・アニメージュ展では、その際、花巻市内の飲食店がコラボメニューとして飲食を提供しているというようなことがあって、盛岡も町との取り組みや、岩手県全体が盛り上がるような企画があればいいと思っている。</p>	

## 観覧者数の推移

## 資料 3-1

区分年度	個人利用				団体利用				免除利用				総利用人員								開館日数	1日平均利用人数
	一般	高・大学生	小中学生	計	一般	高・大学生	小中学生	計	一般	高・大学生	小中学生	計	一般	高・大学生	小中学生	計	(うち常設展)	(うち企画展)	(うち移動美術館)			
13年度	89,875	4,151	4,602	98,628	3,081	292	70	3,443	19,780	1,027	804	21,611	112,736	5,470	5,476	123,682	21,869	101,813	-	151	819	
14年度	43,048	2,495	2,234	47,777	10,407	515	202	11,124	17,466	1,233	2,961	21,660	70,921	4,243	5,397	80,561	15,945	62,832	1,784	315	256	
15年度	35,585	2,410	1,937	39,932	4,894	471	254	5,619	14,903	2,601	2,920	20,424	55,382	5,482	5,111	65,975	11,688	52,992	1,295	316	209	
16年度	44,237	3,658	4,807	52,702	3,845	619	108	4,572	15,522	2,201	3,342	21,065	63,604	6,478	8,257	78,339	10,388	66,949	1,002	314	249	
17年度	37,525	2,497	1,703	41,725	3,051	408	132	3,591	15,735	1,228	2,445	19,408	56,311	4,133	4,280	64,724	6,319	57,357	1,048	312	207	
18年度	37,196	2,301	1,900	41,397	3,579	324	48	3,951	17,538	1,438	2,102	21,078	58,313	4,063	4,050	66,426	6,130	59,760	536	315	211	
19年度	64,367	3,535	4,069	71,971	3,837	987	71	4,895	20,391	1,727	2,730	24,848	88,595	6,249	6,870	101,714	7,124	94,590	-	317	321	
20年度	44,384	2,609	2,505	49,498	3,071	413	70	3,554	18,231	1,452	3,728	23,411	65,686	4,474	6,303	76,463	6,816	69,647	-	316	242	
21年度	45,578	3,034	1,437	50,049	2,380	436	35	2,851	13,836	1,474	2,998	18,308	61,794	4,944	4,470	71,208	7,158	64,050	-	307	232	
22年度	36,790	2,931	1,590	41,311	2,055	583	35	2,673	14,780	1,402	2,515	18,697	53,625	4,916	4,140	62,681	5,830	56,851	-	303	207	
23年度	9,742	382	0	10,124	589	285	0	874	7,412	1,261	2,702	11,375	17,743	1,928	2,702	22,373	17,681	4,692	-	306	73	
24年度	49,595	2,432	2,167	54,194	1,428	599	3	2,030	13,831	2,035	3,944	19,810	64,854	5,066	6,114	76,034	23,113	52,921	-	308	247	
25年度	86,971	1,674	1,980	90,625	1,796	362	0	2,158	17,895	5,360	7,240	30,495	106,662	7,396	9,220	123,278	5,919	117,359	-	310	398	
26年度	24,038	1,436	1,352	26,826	781	595	13	1,389	12,686	2,397	2,771	17,854	37,505	4,428	4,136	46,069	5,853	40,216	-	310	149	
27年度	21,266	1,505	1,091	23,862	2,533	298	363	3,194	14,169	2,121	3,395	19,685	37,968	3,924	4,849	46,741	5,701	41,040	-	310	151	
28年度	16,405	1,215	423	18,043	7,764	654	342	8,760	12,776	1,999	2,657	17,432	36,945	3,868	3,422	44,235	6,192	38,043	-	314	141	
29年度	50,497	2,974	2,673	56,144	17,438	758	1,212	19,408	17,221	1,869	2,727	21,817	85,156	5,601	6,612	97,369	5,551	91,818	-	312	312	
30年度	24,486	1,826	958	27,270	12,621	614	765	14,000	11,611	1,733	3,134	16,478	48,718	4,173	4,857	57,748	6,145	51,603	-	312	185	
31年度・元年度	247,671	19,774	45,593	313,038	34,484	1,804	5,537	41,825	22,115	2,146	3,309	27,570	304,270	23,724	54,439	382,433	6,098	376,335	-	313	1,222	
2年度	20,322	994	393	21,709	10,000	258	305	10,563	7,826	1,143	2,030	10,999	38,148	2,395	2,728	43,271	5,060	38,211	-	297	146	
3年度	50,456	3,204	3,029	56,689	382	1,091	381	1,854	8,887	430	1,666	10,983	59,725	4,725	5,076	69,526	5,186	64,340	-	277	251	
4年度	37,373	3,399	1,728	42,500	151	50	0	201	7,826	1,506	2,156	11,488	45,350	4,955	3,884	54,189	5,186	49,003	-	310	175	
5年度	54,184	3,548	2,572	60,304	958	274	76	1,308	9,361	1,796	1,786	12,943	64,503	5,618	4,434	74,555	9,557	64,998	-	297	251	
6年度	57,985	4,877	5,666	68,528	480	189	61	730	9,828	1,746	2,224	13,798	68,293	6,812	7,951	83,056	9,889	73,167	-	309	269	
計	1,229,576	78,861	96,409	1,404,846	131,605	12,879	10,083	154,567	341,626	43,325	68,286	453,237	1,702,807	135,065	174,778	2,012,650	216,398	1,790,587	5,665	7,251	278	

## 令和7年度事業実施状況 〈令和7年4月1日～令和7年8月31日〉

## 1 美術等に関する資料収集、保管、展示調査研究等の事業

## ア 受託事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容
(1) 展示事業 【学芸業務】	<p>常設展示の充実を図るとともに、様々なテーマによる国内外の企画展等を開催</p> <p>ア コレクション展 所蔵作品を広く公開し、郷土ゆかりの作家や作品を紹介。年4回の展示替え。</p> <p>① 6年度第4期 「陸前高田市被災作品 その2」 【8月末現在】 会期: (令和7年1月25日(土))4月1日(火)～4月20日(日) 観覧者数 535人</p> <p>② 第1期 「萬鐵五郎 みずゑ(水彩画)の世界」 会期: 令和7年4月25日(金)～7月21日(月・祝) 2,934人</p> <p>③ 第2期 「新収蔵作品のご紹介1」 会期: 令和7年7月26日(土)～10月19日(日) 2,033人</p> <p>④ 第3期 「新収蔵作品のご紹介2」 会期: 令和7年10月25日(土)～令和8年1月25日(日)</p> <p>⑤ 第4期 「福田繁雄」 会期: 令和8年1月31日(土)～3月31日(火)(4月19日(日)まで)</p>
	計 5,502人
イ 企画展	
	<p>① 19・20世紀の芸術家とポスター —創作において自由なる競創— 会期: 令和7年4月12日(土)～6月8日(日) 【51日間】 観覧者数 4,845人</p> <p>② Perfume COSTUME MUSEUM 会期: 令和7年6月28日(土)～9月28日(日) 【81日間】 11,121人</p> <p>③ 澤田哲郎展 (岩手県文化振興事業団創立40周年記念企画展) 会期: 令和7年10月15日(水)～11月30日(日) 【41日間】</p> <p>④ アートフェスティワ2025 会期: 令和7年12月13日(土)～令和8年1月4日(日) 【16日間】</p> <p>⑤ レオ・レオーニと仲間たち 会期: 令和8年1月17日(土)～3月22日(日) 【56日間】</p>
	計 15,966人

事業名	主な事業内容
(2) 教育普及事業 【学芸業務】	<p>講演会、ワークショップ等を実施し、美術と美術館利用についての普及活動を推進</p> <p>ア 展示関連事業 〈企画展教育プログラム〉</p> <p>(1) ギャラリートーク 学芸員による企画展示作品の解説 ① 19・20世紀の芸術家とポスター ー創作において自由なる競創ー (5/2 (金)、5/16 (金)、5/30 (金)) 参加者数 46人</p> <p>② Perfume COSTUME MUSEUM (7/4 (金)、7/18 (金)、8/1 (金)、8/15 (金) 9/5 (金)、9/19 (金)) 109人</p> <p>③ 澤田哲郎展 (岩手県文化振興事業団創立40周年記念企画展)</p> <p>④ アートフェスティわて2025</p> <p>⑤ レオ・レオーニと仲間たち</p> <p style="text-align: right;">計 155人</p>
(2) 企画展関連講座等	<p>① 19・20世紀の芸術家とポスター ー創作において自由な競創ー ・開催記念講演会 「19世紀から20世紀のポスターの流れ 芸術家たちの自由な創作」 4/27 (日) 講師：河野泰久 氏 (福井市美術館副館長・本展図録執筆者) 参加者数 25人</p> <p>・ワークショップ「キッチンリトグラフ」 5/24 (土) 講師：芳野 氏 (イラストレーター・版画家) 35人</p> <p>② Perfume COSTUME MUSEUM ・スペシャル・ギャラリートーク 6/28 (土) 講師：久慈達也氏 (DESIGN MUSEUM LAB代表、京都芸術大学准教授、展覧会企画協力者) ・開催記念対談「Making of the Costume —Perfume衣装のつくり方ー」 8/9 (土) 講師：櫻井利彦氏 (SAQULAI, Inc代表、ドレスメイカー) 138人 ×久慈達也氏</p> <p>・型紙トーク「徹底解説！型紙から知るコスチューム」 8/10 (日) 講師：櫻井利彦氏 聞き手：久慈達也氏 51人</p> <p>・子ども向けワークショップ1 「光るようふくをデザインしよう」 7/19 (土) 21人</p> <p>・子ども向けワークショップ2 「手づくりラッフルでかわいく変身！」 9/6 (土)</p> <p>③ 澤田哲郎展 (岩手県文化振興事業団40周年記念企画展)</p> <p>④ アートフェスティわて2025</p> <p>⑤ レオ・レオーニと仲間たち</p> <p style="text-align: right;">計 391人</p>
	<p>〈コレクション展教育プログラム〉</p> <p>(1) コレクショントーク 学芸員によるコレクション展示作品の解説 (月2回) 参加者数 89人</p> <p>(2) コレクション展関連講座 コレクション展に関連した講演会、ワークショップ等</p> <p style="text-align: right;">計 89人</p>

事業名	主な事業内容		
(教育普及事業)	イ 美術普及事業 〈スタジオプログラム〉 (1) オープンスタジオ 8/2 (土) ~8/3 (日) 参加者数 (2) アートデオヤコ 親子でいろいろな素材に触れて楽しむワークショップ ・ 対象: 3~6歳児と保護者 (月1回、10組) 5回 76人 ・ こどもの日スペシャル (5/5 (月・祝)) 254人 計 330人		
	〈教育プログラム〉 学生サポートスタッフの受け入れ・育成 隨時 受入人数 30人		
	〈美術プログラム〉 (1) 館長講座 「様々な視点で美術を見てみよう!」(全4回) 講師: 長内努(当館館長) ①「美術とヘタウマ」 5/31 (土) 参加者数 34人 ②「美術とコスチューム」 8/30 (土) 34人 ③「美術とノルマ」 11/8 (土) ④「美術と絵本」 2/28 (土) 計 68人		
	(2) 学芸員講座 年2回程度 ①「澤田哲郎 -変化する作品」 11/3 (月・祝) 参加者数 講師: 加藤俊明(当館上席専門学芸員)		
	(3) 技法・材料 体験ワークショップ ①日本画 8/31 (日) 講師: 菊池咲氏(日本画家) 参加者数 14人 ②彫刻×舞台美術 10/11 (土)・18日 (土) 講師: 長内努 ③鋳金 1/12 (月・祝) 講師: 菅川恵梨(鋳金家) ④油彩画 1/25 (日)・2/1 (日) 講師: 岩渕毅弘氏(画家) ⑤立体デザイン 2/8 (日)・15日 (日) 講師: 当館スタッフ 計 14人		
	〈映像プログラム〉 (1) アートシネマ上映会 年12回程度 美術に関連する作品から名作映画まで幅広いラインナップで上映 ①ホックニー 4/20 (日) 鑑賞者数 31人 ②永遠の門 ゴッホが見た未来 5/18 (日) 88人 ③黄金のアデーレ 名画の帰還 6/15 (日) 92人 ④島の声 静かな声 7/20 (日) 47人 ⑤セバスチャン・サルガド 地球へのラブレター 8/17 (日) 68人 ⑥夜のとぼりの物語 -醒めない夢- 9/21 (日) ⑦モンパルナスの灯 10/19 (日) ⑧生まれてはみたけれど 11/16 (日) ⑨昼下がりの情事 12/14 (日) ⑩ソング・オブ・ザ・シー 海のうた 1/19 (日) ⑪ブレンダンとケルズの秘密 2/15 (日) ⑫カミーユ・クロードル 3/15 (日) 計 326人		

事業名	主な事業内容
(教育普及事業)	<p>(2) アートスペース、デジタルビジョン、デジタルレファレンス</p> <p>①ライブラリー 通年</p> <p>②デジタルビジョン 美術に関連した映像作品を無料公開 通年</p> <p>③デジタルレファレンス 通年</p> <p>ウ アウトリーチ事業</p> <p>(1) 美術館出前授業（職員講師） 地区ごとに順次実施</p> <p>（2）美術関連研修講師派遣（同） 随時</p>
	<p>参加者数 111人</p> <p>93人</p> <p>計 204人</p>
エ 来館者対応事業	<p>(1) 美術館探検（てくてくツアーア） 年6回</p> <p>5/17（土）、7/12（土）</p> <p>(2) 一般団体等対応</p> <p>①一般団体対応</p> <p>②ファミリータイムの導入</p> <p>小さな子どもと大人が一緒に美術館を利用しやすい時間帯の設定</p> <p>毎月第2木曜日・第4土曜日</p>
	<p>参加者数 17人</p> <p>151人</p> <p>36人</p> <p>計 204人</p>
	<p>(3) 学校団体対応（21団体）※生徒インタビュー含む</p>
	<p>参加者数 499人</p>
(3) 広報事業 【学芸業務】 (広報事業)	<p>美術館ニュース等の各種広報物の印刷・配布による広報業務を実施</p> <p>(1) 美術館通年広報</p> <p>(2) 広報協力店による情報発信（令和7年8月31日現在 273店舗）</p> <p>(3) 広報番組での各種事業の紹介</p> <p>(4) 美術館ニュース「アブリーレ」（年2回 各回約14,500部発行）の発行</p> <p>(5) 企画展チラシ、ポスターの発行</p> <p>(6) 常設展展示目録（展示替え毎）の発行</p> <p>(7) 美術館スケジュール（年4回 各回約15,000部）の発行</p> <p>(8) ホームページでの広報宣伝</p> <p>(9) ツイッター及びフェイスブックでの発信</p>
(4) その他の事業 【学芸業務】	<p>ア 調査研究活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ライブラリー 通年</li> <li>・ ライブラリー企画 年6回</li> <li>・ 蔵書整理公開</li> </ul> <p>イ 美術品修復、保存事業</p> <p>県民の財産である美術品をより良い状態で保存して後世に伝えるため、所蔵作品の修復と保存業務を実施</p>

イ 自主事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容
(1) 美術(館) に親しむ事業	<p>ア 特別自主事業 事業団創立40周年記念事業「まるっと楽しむアートイベント2025」 観覧者誘因策として有料観覧者数1,000人を達成目標にイベントを実施する。</p> <p>イ コンサート事業 美術館固有の空間を活用し、コンサートホールとはひと味違った音楽等の鑑賞の機会を提供する。多様な芸術体験の場として美術館をより多くの県民に知ってもらう。</p>
(2) その他の 事業	図録等著作物販売サービス事業 美術館発行の図録の頒布を行い、利用者サービスの充実を図る。

(2) 指定管理事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容																																																								
指定管理事業 【指定管理】	<p>観覧料の徴収及び管理運営</p> <p>(1) 臨時開館日 4月28日（月）、8月12日（火）、1月3日（日）</p> <p>(2) 観覧料無料の日</p> <p>① こどもの日 5月5日（月・祝） 対象：18歳未満の児童生徒 ② 敬老の日 9月15日（月・祝） 対象：満65歳以上 ③ 文化の日 11月3日（月・祝） 対象：全員</p> <p>(3) 観覧者数等の状況</p> <p>【8月31日現在の鑑賞者数 単位：人】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7年度 a</td> <td>1,982</td> <td>3,578</td> <td>2,592</td> <td>5,495</td> <td>7,821</td> <td><b>21,468</b></td> </tr> <tr> <td>6年度 b</td> <td>2,647</td> <td>6,638</td> <td>3,734</td> <td>3,714</td> <td>17,071</td> <td><b>33,804</b></td> </tr> <tr> <td>増減(a-b)</td> <td>▲ 665</td> <td>▲ 3,060</td> <td>▲ 1,142</td> <td>1,781</td> <td>▲ 9,250</td> <td>▲ <b>12,336</b></td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 教育普及事業の状況</p> <p>【8月31日現在の参加者数 単位：人】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7年度 a</td> <td>153</td> <td>596</td> <td>349</td> <td>570</td> <td>642</td> <td><b>2,310</b></td> </tr> <tr> <td>6年度 b</td> <td>333</td> <td>774</td> <td>447</td> <td>644</td> <td>571</td> <td><b>2,769</b></td> </tr> <tr> <td>増減(a-b)</td> <td>▲ 180</td> <td>▲ 178</td> <td>▲ 98</td> <td>▲ 74</td> <td>71</td> <td>▲ <b>459</b></td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 地域連携事業による広報活動</p> <p>岩手県立美術館、盛岡市先人記念館、原敬記念館、盛岡市子ども科学館、盛岡市遺跡の学び館、志波城古代公園で組織する「もりとぴあねっと」に参画し、地域連携事業を実施</p> <p>① さんさこみち共同告知コーナーの活用（企画展の告知） ② もりとぴあねっと企画会議等 2ヶ月に1回程度開催 ③ 「もりとぴあねっとだより」の作成と配布 隔月発行</p>	年度	4月	5月	6月	7月	8月	小計	7年度 a	1,982	3,578	2,592	5,495	7,821	<b>21,468</b>	6年度 b	2,647	6,638	3,734	3,714	17,071	<b>33,804</b>	増減(a-b)	▲ 665	▲ 3,060	▲ 1,142	1,781	▲ 9,250	▲ <b>12,336</b>	年度	4月	5月	6月	7月	8月	小計	7年度 a	153	596	349	570	642	<b>2,310</b>	6年度 b	333	774	447	644	571	<b>2,769</b>	増減(a-b)	▲ 180	▲ 178	▲ 98	▲ 74	71	▲ <b>459</b>
年度	4月	5月	6月	7月	8月	小計																																																			
7年度 a	1,982	3,578	2,592	5,495	7,821	<b>21,468</b>																																																			
6年度 b	2,647	6,638	3,734	3,714	17,071	<b>33,804</b>																																																			
増減(a-b)	▲ 665	▲ 3,060	▲ 1,142	1,781	▲ 9,250	▲ <b>12,336</b>																																																			
年度	4月	5月	6月	7月	8月	小計																																																			
7年度 a	153	596	349	570	642	<b>2,310</b>																																																			
6年度 b	333	774	447	644	571	<b>2,769</b>																																																			
増減(a-b)	▲ 180	▲ 178	▲ 98	▲ 74	71	▲ <b>459</b>																																																			

## 資料5－1 岩手県立美術館の今後の美術品収集及びコレクション展示の考え方について

### 【美術品等収集に係る方針等】

#### 1. 美術館整備基本構想（平成6年6月）における美術品等収集方針

- (1)収集の対象は、原則として近・現代の優れた美術品とする。
- (2)本県出身及び本県ゆかりの作家の作品の収集を重点的に行い、それらと関連のある作家の作品を中心として、国内外の優れた美術品を収集する。
- (3)関連資料の収集に努める。

#### 2. 美術館整備基本計画（平成7年11月）における美術品等収集体系

- (1)岩手の美術…本県出身及び本県ゆかりの作家の優れた作品を収集する。
- (2)日本の美術…本県出身及び本県ゆかりの作家と関連のある作家の作品を中心とする。
- (3)世界の美術…本県出身及び本県ゆかりの作家の関連のある作家の作品を中心とする。

### 【コレクション展示の方向性】

#### 1. 所蔵作品を広く公開し、郷土ゆかりの作家や作品を県民に紹介する。

##### 【岩手県ゆかりの作家・主な作品の認知度を高める】

###### 【具体例】

R6年度菅木志雄特別展示「揺らぐ体空」において作家及び作品を紹介するチラシを作成配付

#### 2. 美術館所蔵の現代美術作品をわかりやすく紹介・展示し、現代美術に関する理解の普及を図る。

###### 【具体例】

①R5年度コレクション展第2期「げんだいびじゅつって？？」及び第3期「菅沼線 無責任な泉」の連続企画により、現代美術を取り上げる

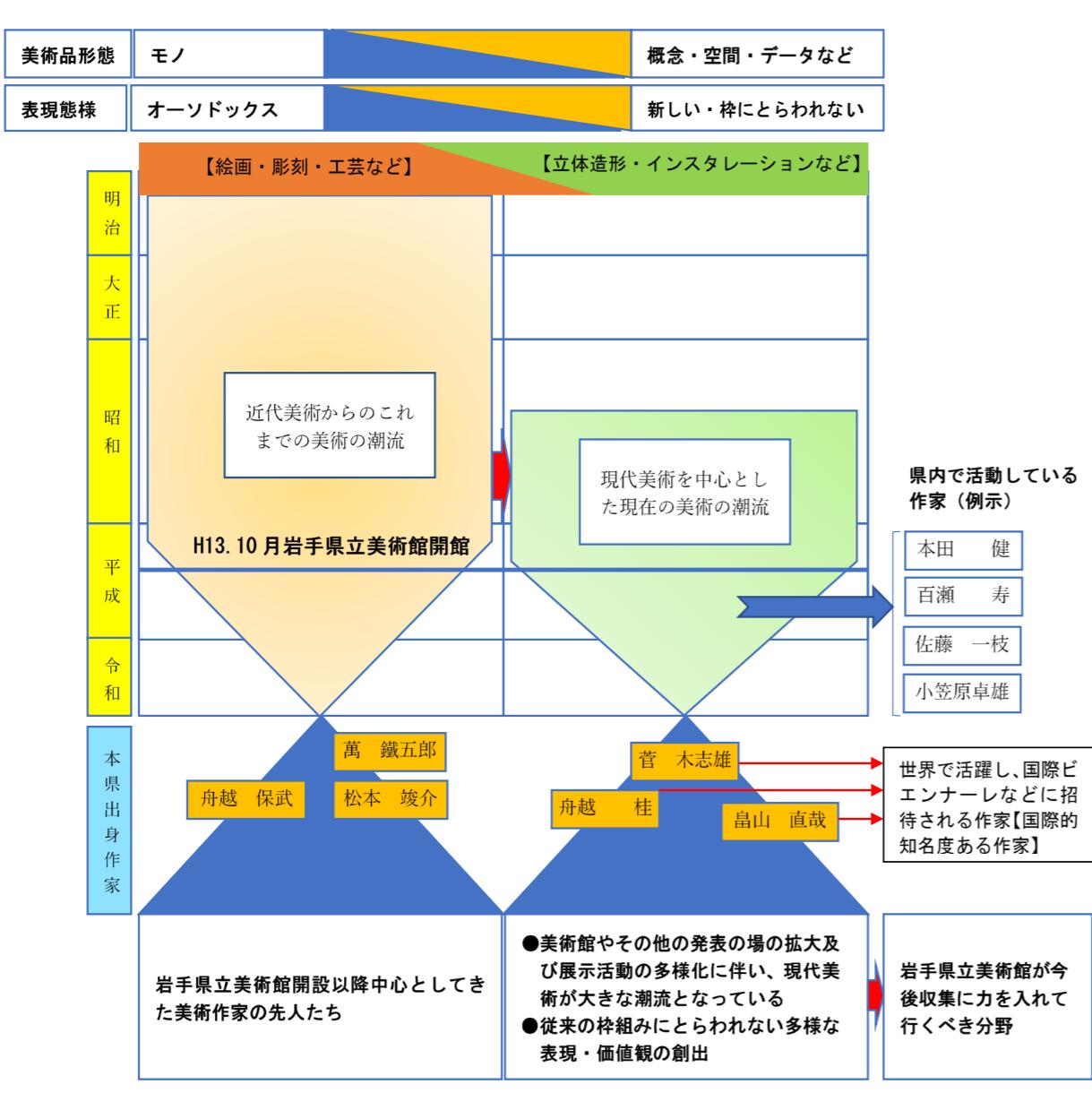
②R6年度コレクション展第2期「百瀬寿—進化する絵画」及び菅木志雄特別展示「揺らぐ体空」の開催

#### 3. 岩手県出身及び岩手県ゆかりの作家の優れた美術品について、調査・研究に基づいた価値を県民に紹介し、岩手県民への理解の浸透を図る。

##### 【岩手県出身作家についての県民理解を深めるような紹介・展示】

→コレクションから発展的に自主企画展を開催し、紹介・展示

### 収集・展示の考え方（イメージ）



### 令和7年度コレクション展

	会期	特集	内容
第1期	4/25～7/21	萬鐵五郎 みづゑ（水彩画）の世界	萬鐵五郎生誕140年を記念して、当館で所蔵する水彩画102点を前後期に分けて、一挙公開。
第2期	7/26～10/19	新収蔵作品のご紹介1	(1)舟越桂 (2)令和4年度自主企画展「IMAをうつす7人」出品作からの取得作品 (3)令和5年度自主企画展「そのとき、岩手では」での展示を機に取得に至った郷土作家の作品
第3期	10/25～1/25	新収蔵作品のご紹介2	(1)菅木志雄 (2)令和4年度自主企画展「IMAをうつす7人」出品作からの取得作品 (3)杉本みゆき、昆野恵、村上誠、葛西崇の作品
第4期	1/31～4/19	福田繁雄	県ゆかりの世界的グラフィックデザイナー、福田繁雄を特集。

### 展示プラン

#### 【第2期展示のポイント】

令和6年度の収集作品は購入と寄贈を合わせて55点にのぼったことから、恒例のお披露目展示は、2回に分けて行うこととした。

その第1弾となる2期展示は、取得点数が多い舟越桂作品については一部屋を充てて、所蔵の木彫像も交えて、さながら特集展示のような密度の濃い展示を行っている。また、寄託作品も併せて紹介している。

その他の新収蔵作品は、当館所蔵作品のうち、同時代の動向、様相がわかる作品と共に並べ、作品の位置付けが分かるようにした。

次の3期展示では、菅木志雄を筆頭に、現代美術作品中心の展示を計画している。

資料5—2 令和6年度に取得した美術品〔購入による〕

	作品	作者	題名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	作家略歴	取得理由	収集の必要性
1		菅木志雄	景位	2021年	コンクリートブロック、アクリル板、インク	80.0 × 676.0 × 429.0	菅木志雄(1944-)は岩手県生まれ。県立花巻北高校卒業後、多摩美術大学に進学後、静岡県伊東市を拠点に活動している。1960年代末から70年代の日本に起きた美術動向「もの派」の代表作家として知られており、もの派の活動が終息した後も、様々な手法による作品を国内外で発表し続けてきた。長らく日本の現代美術をリードし、近年では海外でも高く評価されている。2016年、第57回毎日芸術賞受賞。	■令和3年度企画展「菅木志雄展」を回顧展形式で開催 ■既収蔵作家 ■岩手県出身作家	■岩手県出身で、他の芸術作家にも多大な影響を与え、世界的評価を受けている作家 ■戦後日本における重要な美術動向の一つである“もの派”的代表作家 ■岩手県立美術館で一定数の作品をまとめて収蔵・展示し、岩手県民の財産として広く周知浸透を図る必要がある。 ■当館では屋内外に設置するインスタレーション作品や、ごく小品の平面作品を収蔵しているが、展示室内で展示可能な作品を拡充する。
2		菅木志雄	超間	2018年	木、アクリルペイント	187.3 × 141.0 × 19.0			
3		泉田之也	積層環	2022年	陶	60.0×83.0×19.0	泉田之也(1966-)は、陸前高田市出身で、1995年に野田村に窯を開いて以降、同地で制作を続けている。久慈など地元の土を用いて生み出される緊張感のある現代的な陶のオブジェや器が国内外で高い人気を誇る。2000年、02年朝日陶芸展グランプリ受賞。	■令和4年度企画展「IMAをうつす7人」に出品 ■既収蔵作家	■「IMAをうつす7人」展は、岩手ゆかりの現代美術家たちが、震災からの10年間で大きく変化した世界をどのように捉えてきたか作品によってたどる企画展であったことから、岩手の今を表した作品として取得し、「変化の時代」における美術のもつ新たな可能性を示すものとして、岩手県民に広く周知浸透を図る必要がある
4		宇田義久	水脈3	2016年	アクリル絵具・ウレタンニス、パネル	170.0×170.0	宇田義久(1966-)は、福島県会津若松市生まれ、岩手大学に進学以来、盛岡で暮らす。支持体である布に折り目をつけたり、糸を張ったり、描くことなく画面に痕跡を残す描法を続ける作家。素材と色彩との構成によって、「水」をテーマに作品を制作する。	■令和4年度企画展「IMAをうつす7人」に出品 ■既収蔵作家	■「IMAをうつす7人」展は、岩手ゆかりの現代美術家たちが、震災からの10年間で大きく変化した世界をどのように捉えてきたか作品によってたどる企画展であったことから、岩手の今を表した作品として取得し、「変化の時代」における美

5		宇田義久	気象 2022 異星の朝	2022 年	アクリル絵具、 パネル	160.0×340.0		術のもつ新たな可能性を示すものとして、岩手県民に広く周知浸透を図る必要がある
6		増子博子	異果て	2018 年	インク、キャン ソンヘリテージ 水彩紙・木製パ ネル	250.0×190.0	増子博子（1982- ）は、宮城県に生まれ、その後家族の都合で東北各地（福島、山形、宮城）を転居、2008 年に宮城教育大学大学院修了。2011-22 年には岩手に居住。トキヨーワンダーウォール賞、Toyota Art Competition 優秀賞受賞。VOCA 展、「N.E.Blood」（リオス・アーク美術館）出品。細密なペン画で早い頃から画風を確立し、国内外で評価されている。2011 年の震災直後に岩手に移住して制作した。	■令和4年度企画展「IMAをうつす7人」に出品 ■新規収蔵作家
7		中島香緒里	時のかけら	2014 年	大理石・木	150.0 × 90.0 × 75.0	中島香緒里（1979- ）は岩手県生まれ。2005 年岩手大学大学院修了。2001 年から盛岡彫刻シンポジウム参加。第 87 回国展 準会員彫刻部 F 氏特別賞受賞。2016 年カッラーラ国際彫刻シンポジウム参加。イタリア・ルネッサンスの絵画から受ける印象を作品の基調とする。石彫を中心に様々な素材や技法を体験し、イタリア大理石モザイクに出会い、新たな制作表現を展開している。盛岡市在住で、盛岡彫刻シンポジウムのアートディレクターを務める。	■令和4年度企画展「IMAをうつす7人」に出品 ■新規収蔵作家
8		杉本みゆき	遠いゆくえ	2005 年	アクリル・岩絵 具、画布	130.3×162.0	杉本みゆき（1955-、青森県生まれ）は、京都で絵画を学び、盛岡と東京で発表を続けてきた画家。1970~80 年代には具象絵画を制作したが、90 年代からは一貫してアクリルによる抽象絵画を制作。夕暮れや雨降りといった事象を感覚的に捉え、その気配や空気感など見えないものを、柔らかな色彩と表情豊かなストロークで表現する。盛岡市在住。	■令和4年度第4期コレク ション展にて特集展示を 開催 ■既収蔵作家

資料5-3 令和6年度に取得した美術品〔寄贈による〕

No.	作品	作者	題名	制作年	技法	寸法(cm)
1		菅木志雄	事位(再制作)	1980／2021年	木、枝、石、鉄、プラスチック、亜鉛メッキ鋼板、コンクリートブロック	19.5×583.0×506.0 (オリジナルの空間寸 245.0×583.0×540.0)
2		菅木志雄	潜深	2018年	木、アクリルペイント、石	255.1× 95.7× 82.3
3		宇田義久	水位2	2011年	アクリル絵具・ウレタンニス・木綿糸、パネル	80.0×80.0
4		宇田義久	water-line 07-02	2007年	パネルに綿布、糸、アクリル、ウレタンニス	160.0×148.0
5		増子博子	土澤盆栽	2011年	ペン、インク、鳥の子紙、木製パネル	270.0×210.0
6～15		増子博子	「側の器」ドローイング10点	2013～2022年	ミクストメディア	21.0×30.2ほか

16		中島香緒里	時のかけら	2019年	大理石・木・鉄・ピューター・金箔	150.0×90.0×120.0
17		杉本みゆき	雨を待つ港	1981年	アクリル、画布	91.0×116.7
18		舟越桂	自画像	1985年	鉛筆、紙	38.0×26.5
19		舟越桂	午後の青のためのドローイング	1992年	鉛筆、紙	100.0×79.0
20		舟越桂	DR1925	2019年	水彩・オイルスティック、紙	76.0×56.5
21		舟越桂	DR1907	2019年	クレヨン、紙	54.4×39.5
22		舟越桂	「青の書」のためのドローイング (DR2002)	2020年		54.8×39.5

23		舟越桂	DR2113	2021年	木炭、紙	30.5×23.0
24		舟越桂	DR2313	2023年	パステル、紙	31.0×23.0
25		舟越桂	ウォーター・ブルー	1990年	スピットバイト・ドライポイント、紙	103.5×82.5
26		舟越桂	北からの音 ステート2	1990年	ソープグラウンド・アクアチント、紙	44.5×35.5
27		舟越桂	冬の客	1993年	アクアチント・スピットバイト・ソフトグラウンド・ドライポイント、紙	67.0×58.0
28		舟越桂	街を見つづける	1993年	アクアチント・ドライポイント、紙	67.0×58.0
29		舟越桂	丘の上のスフィンクス	2005年	ダイレクトグラビア、エングレーヴィング、ドライポイント、紙	75.5×57.0

30		舟越桂	砂漠のスフィンクス	2005年	ダイレクトグラビア、エングレーヴィング、ドライポイント、紙	75.5×57.0
31		舟越桂	砂の街のスフィンクス	2008年	アクアチント、ソフトグラウンド、エングレーヴィング、ドライポイント、紙	69.5×57.5
32		舟越桂	スフィンクス、問う	2008年	ダイレクトグラビア、紙	94.0×77.0
33		舟越桂	私の中のスフィンクス	2008年	ダイレクトグラビア、紙	94.0×77.0
34		舟越桂	誰の眼とあるか、スフィンクス？	2011年	楠に彩色、大理石、ガラス、革、ステンレス	108.5×54.0×34.0
35		昆野恒	供物	1964年	和紙	43.0×130.0×35.0
36		昆野恒	壁のイメージ	1964年	和紙(レリーフ)	83.0×103.0×23.0

37		昆野恒	無題	1967年	和紙	88.0×66.0×67.0
38		昆野恒	ORIGIN No.7	1977年	木、カシュー(レリーフ)	95.0×110.0
39		村上誠	深い森の伝説	2012年	油彩、画布	162.0×130.3
40		村上誠	たまゆら	2022年	油彩、画布	145.5×112.0
41		内村吉助	病婦	1914年	油彩、画布	97.0×97.0
42		内村吉助	自画像	1914年頃	油彩、画布	61.4×51.0
43		阿部芳太郎	〔親子〕	1923年頃	油彩、画布	80.3×65.1

44		阿部芳太郎	陽春村の辻	1941年	油彩、画布	50.5×65.7
45		阿部芳太郎	[少年]	1944年頃	油彩、画布	45.5×60.6
46		萩原吉二	馬市所見	1943年頃	木版、紙	34.8×47.3
47		葛西 崇	ある宇宙に開かれた苦惱の窓……… マハートマー1970.NO.II.	1970年	アクリル、画布	162.0×130.3